故座田維貞ヘ贈位建白

二付副申

京都府官家士族故院雜色學習院雜掌右兵衛大尉正六位下座田維貞ヘ贈位ノ儀別紙ノ通護王神社宮司半井真澄ヨリ建白候條取調候處相當功績有之候者ニ付可然御詮議相成度此段及副申候也

明治四十三年十月二十五日

京都府知事大森鍾一

京都府知事之印

内閣総理大臣侯爵桂太郎殿

勤王家ニ御贈位之義ニ付達白

王政維新之前後ヲ問ハス古来苟モ國家ノ為盡力候者ハ夫々御贈位之恩典ニ預カラサル者無之是寔ニ聖世ノ美事ト竊ニ感佩罷在候然処京都府官家士族故院雜色學習院雜掌右兵衛大尉正六位下座田維貞ハ夙ニ勤王ノ志篤ク堂上學校ノ必要ヲ建議シテ學習院ヲ開設セラレ和氣清麿公ニ贈位贈官ヲ建言シテ遂ニ神階神號ノ宣下アルニ至或ハ菅家遺誡ヲ刊行シテ菅公ノ功德ヲ彰シ或ハ國基ト題スル一書ヲ著シテ天壤無窮ノ皇基ヲ發揮シ大義名分ヲ明カニシテ天下ノ志士ヲ勵マシ又國事ニ付テハ嘉永癸丑以来屢遠白シテ所見ヲ當路ニ披瀝シ日夜寢食ヲ忘レテ盡ス所為カラス實ニ維新ノ今日アルハ同人ノ功與リテ力アリト被存候然ルニ其勤王ノ功績湮滅シテ猶世ニ顯レス且諸志士御贈位ノ恩榮ニモ相漏シ候ハ誠ニ遺憾ノ至ト存候條萬ト御取調ノ上相當ノ御贈位相成候様致度就テハ同人ノ事歴詳細取調可申出之処子孫零落シテ殆ント絶家ニ均シク隨テ書類等渾テ散逸シテ傳ハラス百方捜索シテ漸ク若干ノ書ヲ得候ニ付猶亡父忠見ノ存生中同人ト往来シテ親シク見聞セシ事等ヲ俗ヒ別紙ニ記載シ旦小傳ヲ記シテ御参考ニ供ヘ候條何卒特別ノ御詮議相成度尤近日岡山縣下ニ於テ行ハル、陸軍

演習ニ　行幸被為在候テ當地御通御相家候趣敬承
候ニ付此隆恩典ニ預リ候ヿ無此上大慶ノ至ト存候依テ
此段謹而及表白候也

明治四十三年十月十五日

護国神社宮司半井真澄

護国神社宮司印

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

参考書

国立公文書館
National Archives of Japan

故從六位下 **座田維貞君小傳**

院雜色學習院雜掌右兵衛大尉正六位下座田維貞君
八美濃國高須の醫師速水玄仲の男にして出て座田維
正氏の嗣となる座田氏本姓紀氏武内宿禰の末裔なりと云
世々院雜色なり君和漢の學に通し夙に勤王の志篤く
常に和氣清麻呂公及菅原道真公の誠忠を慕い慨然として
大に為に所あんとす閑白鷹司政通公及三條實萬公三
條西李知公等の知遇を得又梁川星巖小林良典其他の志
士と交り常に相往來して屢國事を論議に君謂へらく中世
以來皇威の振ざるに常に幕府の專横を馳致せしめ是
畢竟堂上公卿の無為無學なるに因る仍て一の學校を興し
專ら堂上の子弟を教育し以て大に皇威の振興を誓ら
さるべからざるを當路者に建言し此議幸に採用せられて
弘化三年學習院の開設あるに當り君同院の雜掌に舉らる
君大に喜ひて盡力する所あり奉務十有餘年猶一日
の如し中間中風に罹り自由勤務を許さるに雖も病と力めて
出勤し勵精怠らざりしと云ふ又世の漢學を為に有我國體
の尊きを知らに專ら漢土の事物を崇拜するを歎し菅家
遺誡を刊行して之を世に弘め又菅家の裔東坊城聰長公
に乞て遺誡中の二章を石に勒して北野社内に建設せり以て

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

世人を誡む君又思ふに天下の人どもして我國體の尊厳を知らしめ大義名分を明まするは古来の忠臣を旌表する在り而して古今忠臣中和氣清麻呂公の如きは實に我國體を失し其偉勲比類なし然るに世人猶未だ公の功績を知らざる者多きを誠に遺憾なりと美白鷹司政通公は建言して公を贈位贈官の事を行ひ公深く其言を容れ奏請する所あり行人事公乞事切なり

嘉永四年三月十五日 先朝遂に高雄山に在りし公の社を神階神號を宣下あるに至る此時に當り天下勤王の士之を聞て感奮喜踊躍し 先朝追賞の美挙鳴らざる者なく大に天下の人心を感動せしめしは蓋亦偶然なるにあらず世或は水戸烈公の建議を出たりと傳る者あれども是全く座田氏の首唱にして鷹司家の斡旋に因りしものなり又渓東の人にして幕内に仕へて皇室を知らざる者多し之を警策せんとして江戸浅草寺内に公の社を建設し渓東の人をして洽く之を知らしめんと百方尽力する所ありしも此事終に行はるるに至らず寂寞然として其志を知る者なし

又我國體の基固を図るに國民の大和魂を養成するに在りとし屈原の国の革命に從ひて首陽山に餓死せし伯夷叔齊の義を激賞し國基一巻を著はして 先帝乙夜の覧に供し奉り□徽猷を恭ふして知己朋友之に聞て栄とする為めに詩歌文章を贈りて之を賀し君集めて一冊と為し題して國基題詠集と云ふ

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

時は幕吏の注目する所となり其捕吏門を窺ふ事屢々にして
家族等恐怖し出奔せんとせりと云ふ安政六年八月廿二日
病を以て歿に京都市寺の内大宮西妙蓮寺先塋の側に葬
る嗚呼王政維新の今日ある固より聖運の然らしむる所なり
と雖も君の夙に勤王を唱へ百方以て天下の志士を奬勵鼓
吹せしもの大に與りて力ありと云へく其功豈没にへきんや

(下長谷カミヨウ製)

参考書

學習院雜掌拜命之書面

座田右兵衛大尉

井上主税

稲波主膳

學習院就御取設院内雜掌之義今日格別之思召ヲ
以テ右三人ハ御内意被　仰出以德行精勤可仕旨被
仰付御時節柄狹少之御定行ニ付三人分定被下置
代り合ニ人宛年番可相勤旨年番詰切之者ハ五人分被
下之讀書ヲ以テ被相勤若多人數之節ハ雜掌助ケ可仕
旨被　仰渡候

但後刻御院ハ可罷出御ノ次第言上可致旨被仰渡候

壬　五月

○北野神社境内ハ建設之碑文

凡神國一世無窮之玄妙者不可敢而窺知雖學漢土三代
周孔之聖經革命之國風深可加思慮也凡國學所要
雖欲論涉古今究天人其自非和魂漢才不能徹其淵奥
矣

嘉永元年四月廣右兵衛大尉紀維貞需　菅原聰長
右遺誡要文二則宜為後世龜鑑故請其三十一世東

一　坊城黄門公書屬慶延坊　神意惟ト悦便勒石建
廟東以示諸人云
嘉永戊申　初夏　右兵衛大尉紀朝臣維貞

右建碑題詠

大相國鷹司公摘菅家遺誡中和魂漢才四字補以実事
篤行四字手書二句賜之家大夫種田君而學習院雑
掌右兵衛大尉紀君更請東坊城公書其要語二章
勒碑樹之北野祠中欲弘斯道也且序其事乞諸友
詩文為一冊余亦應其乞賦詩贈之
恭觀遺誡拜菅神君子儒哉我大臣更悦當今賢相國
手書要語誡家人忠魂無失大和真何忌文文欺漢人
所得相公所教實種田君若侍菅神吾先知出帝邦神學
漢或為外國人爰刻菅家遺誡要負如其名紀朝臣
弘化四年孟尾念八
從五位上行大舎人助稱音博士源朝臣松苗拜草時七十四
真澄云鷹司政通公の手書和魂漢才實事篤の八字
八刻石高雄山護王神社舊地ょ存ぷ是亦座田氏の所
建なり
和氣清麿公ょ贈位贈官之建白
贈正三位和氣清麻呂卿非中歳及千五十年候趣兼知仕候此

(上長官カミヨウ製)

卿之於大功業者開闢以來和漢無倫第一平安城遷都之砌
為僧ゝ被遂其功山城大和大川筋陸水災以私力開墾田而
救窮民亦長医術救諸人為民部大輔撰有例廿卷献之孫神
護景雲之頃　皇紗欲移凡鄙之時獨立獨行不顧他輕自塵
芥一命忠勇節烈突出萬人之上至大至剛以一己之力遂被
掃除魍魎再天下爲太平萬民安穩　皇紗連綿目出度御
代ト相成弘化之至于今日候為偏ニ此卿之出肺肝欲傾日月
不墜地若其節　皇紗移ル鄙者ニ度可帰其本筋者有
御座間敷如鑾夷失君臣上下之禮諫朝夕之君夕之臣ト相成
殆者退朝作變革命之國如西土歎面歎心之者汚　天位可
失神國之光輝哉之処速清風拂浮雲一天清明赫然光曜
倍以前可再動筋次而無御座如磐石相固り御栄エ十ましま
ゝゝ此卿之全光ト作恐奉存候聖経曰德懋々官功懋々賞ト
相見エ亦不旌德則勸善之道缺不致賞則報功之典廢ト申候
事共聖教ニ多ク相見申候千有餘年之至于今日忠節之大功
不被為忘思召被賞其功業御贈位御贈官宣下為被為在候得
者六十餘州大小之神祇之可御心貴賤上下ニ至迄一ニ者天朝之
奉仰御高德ニ者補佐明良之奉感聖意愈萬世不易與天地
無窮御代ニ鴻基ト相成人心一同可存國忠根元ト成行何方ハ
御差支不被為在穏ニ萬歳之後迄為萬事御為宜譬人體候

得者長生不老五體堅固之良藥於　朝廷者天下益大平寶祚
長久人心服之良劑可相成ゝ被存候
一當時御国之学い流行都鄙和魂之輩多々夫々　朝廷御為
筋を心付色々ゝ箇之趣申出候者も相有之哉ニ候得共時世之
御模様何事ゝ内外御振合不堂内ニ付忠誠ト心得候事共何事
茂不可時世却而不忠ト可愛儀共粗義歎ケ敷奉存候清麻呂御
正績之儀者通国史候者不及申上ル庸之者共共功業之義
薄を疑惑仕罷在候次第ニ而前顕申上置候通功懋々賞ト申
候聖言ゝ被為出思召御聽伝御聽官之儀宣下被為在候得者
上下一紗御恩澤之程銘肝銘腑幾億萬歳目出度御世　朝廷
之御守ト相成弥光輝可満四海ト不顧恐此段御前迫奉願
願候旦御尊考之程御願奉申上候以上

真陰云高雄山神護寺ニモ此遠言書ノ写ヲ蔵シ此書ト
小異アリ思フニ此書ハ最初ノ草案ナラム

江戸浅草寺内ニ清麻呂公之社を建立ス願書

奉願上口上之覚

一當山之鎮守和氣清麻呂公之御事者別紙事蹟書并ニ
勧進等之二冊ニ悉増ヲ顕シ御座候而委細者国史ニ並御
座候通り和漢ニ無類古今無渡之忠臣於禁中ニ而以格
別尊　叡慮ニ而昨春三月正一位護王大明神ト神號宣下

被為在禁中御初堂上方迄茂不殘御寄附被為在其上毎
歳正五九三ヶ度ニ者御祈禱之巻数献上可仕様被為仰出
格別之御取扱被為在山内一統深奉畏入候右様天下忠臣
之鑑共相成御儀ニ而人々忠誠之志ヲ慕候次第ニ茂成行
忠孝之儀者人倫第一之事ニ御座候間此度浅草御寺内
之内ニ而右御社御執建被為成下諸人拜礼為仕度尤新規
之義彼是御六ヶ敷儀ニ茂被為在候得者古来御有来御社
之内ヘ相殿ニ者可然御社之跡御修復遍之御執成ヲ以テ
御執建ニ相成候様仕度何卒出格之以御憐愍此段御
聞濟被成下候ハヽ深難有仕合奉存候以上

嘉永五壬子年二月

同上ニ付尺牘

一林家尺牘普賢院ヶ道ニ候儀ニ付宜御扱被下度旨ヲ
普賢院事宮様ト御法義御弟子之辺ヲ以テ伝藤一齋
ヘ向ヶ御頼林家傳達尚又同人義茂執持呉候様ニ御取斗
被下度此尺牘昨年可呈之処不得便ヲ延引候條其段猶
又御含御取斗被成下度候事

一護王大明神御事跡書一冊勸進一冊内願書壱通相副差
上候間右御社浅草御寺内ニ於テ御取建之義相可候様宜
御取斗被成下度候事

子ノ二月

真澄云右ハ何レモ神護寺内普賢院ノ名ヲ以テストハ雖
其實皆座田氏ノ計画スル処ナリ

近衛右府公ヨ國基を奉りし時老女村岡の礼狀
をひよりはゝ名いゝ彫り形ゝ文面いてゝふゝ内ふさこと打
こゝ見ゝこゝのわゝ文章つゝくゝもゝまゝゝもいよゝく
内掛ゝ成内陳り常かゝゝゝいゝさめてゝゝゝこゝくゝ物ひゝ社
内撫燃ゝゝのゝせゝゝめてゝゝくゝゝあゝゝゝ自筆ゝ内
母謝ゝゝゝれの玉墓を記此節内出来ゝゝ右府掛ゝも
内上ゝゝ成生ゝゝ刑部ゝ後ゝ内ゝ上ゝ成ゝゝゝ筆

ゝゝゝ成ゝゝ内ゝ男めゝ男ゝ以ゝ筆ゝ以て撫ゝく
内或ゝゝ迎ゝこゝく男ゝつゝゝゝ形成ゝ成ゝ秋ゝ成ゝ右ゝゝ
内ゝ内ゝ掛ゝ内ゝ内ゝ上ゝゝ後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

村岡

國基題詠

座田氏ノ自筆ノ題詠

座田ノ社ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

天の下國をかゝるけとかゝしきやうに　大昔の安えしくこれ
のやまとハ百國のわくこゝろおや國を地のをゝめの時の白地さ
れたゝさんをとさとやうゝ國ゝはれを　まへらの地のさよ地つき
くつりれかのいやつうひもて第代もかをるとるくをきゐをな
をうゝはりすさひつるやゝうれこきゝいさうゝらにてあけをす
れとひゝりてふ名ををゐへをとうゝれをのちつゝれをふいかるゐや
ゐゝこれゝゝこれやきゝろのきやさにきやれをてゝをかのゝいや
ゝむきゝをおけきえをゝゝのゝにあるゝとゝを思ひうをてを技
をゝゝも男とゝゝへつゝいやきひをてつゝへてありかくをこのを
をちゐをきをりを技こをゝゝもひとりうれゝこゝうゝゝへのゐるをてふ

人を國ふりをうまくかむゐへ第代の名をさめゐきれを
きゝをあ紀國のくにふりはあゝめゐをゐ伯夷をふ人のこをを
い第年をゝせのほも花くをゝ桜のめをゝと世の人をふゝくめを
ゝゝうゝゝきやをりゐれをのゐるふゝすゝこれのちれを人ゝをに
かくををりゐるをこ城ゝもうをくゝをゝをけゐつをゝをゝれを
ふゝをもをのゐうゝを言をゝいをゝををゝを人のゐもをゝをゐれを
ゝをゐの墓ゝを名をゐいかひゐれ
めかゐやくゐをゝめゐつゐ先をゝをゐ乃ひゐゐゝ　忠夷

真澄云國基の内容を此長歌をて知る事を得へし

同

著書一卷上丹稗漢學和魂世所師祖述憲章真卓識千秋千此護神基

紀君所著國基實發千歳未發之奥蘊矣側聞既供乙覽弓甚讃歎但感嘆之餘賦小詩以奉

源高憲拜題

時世ニ付達白書

廉直の趣まて萬事德川家長久之基い專一ニ思召候得共於関東ハ何事も心得遠い仕奉恨　朝廷候趣なるも相聞ス関東之處置誠抱石入泗負薪入大之形業切ス恐入歎ヶ敷義ニ奉存候先頃い家門之面ニ尾水両家趣前並ニ一橋儀被蒙召候処上方諸侯ゝゝ從令罪跡萬一有之候共寛度之良ゝを以て穏便に私置候外窓之處置方專一可而斗答之処以切ゝゝ大老有司之面ニ擅ニ衆我意候致方且枝葉を外ニ外窓を力ニ頼ニ候趣意も相見ス申候右様不敬不埒之形斗ゝ座候ゝ段ニ仰憐恩を以て德川家長久之基を被思召大老閣老家門之面ニ列侯外様譜代迄ゝ群議有之公武御合體之ゝ趣意被　仰進候詔書之趣定而雖有仕合奉感佩答ニゝ座候得共前件之次第心得遠い之形斗仕候面ニゝ座候間此上万一御恩惠之程忘却仕恵計異域之形斗仕候哉ゝ雖斗尚又武威ニ

相募り候次第も御座候得ハ徳川之武運も盡果國家混乱
之端ニも可相成と扨ニ歎ケ敷次第ニ御座候
一前條　詔書之趣ニて関東も一變可仕候哉何分仮條約調
判仕候間此上外蛮へ申譯難相立と無餘義趣申立間部下
総守上京之上奉歎願尤無據當今之時勢を申立外蛮一
統ニ蜂起渡来ハ〳〵候得ハ大炮大船之用意も未相整兼防
禦難行届戦争ニ及候節ハ必敗軍仕却而深ク奉恐　宸襟候
而ハ恐入且萬民困塗炭歎ケ敷次第ニ専可奉申上哉尤防
禦争戦之義ハ武家へ被仕可然且御政務之義ハ被仕將軍
萬事取斗来勿論御外之義ハ將軍之任ニ候間其時ニ隨ひ一ニ
不經奏聞取斗候義も有之且昔年楠正成以　勅命無餘
義湊川へ出陣敗軍之義ハ兼テ覺悟ニ而不奉背　勅命出
陣之上打死候得ハ却而深ク被恐　宸襟候先例も御座候ニ付
争戦防禦之義ハ將軍へ御仕被為在度ちと共言上可仕哉下
総守義上京仕候得ハ事を巧ニ臨機應変ニ御應答も可仕
同人義相應ニ文事も有之雄説も速ニて氣力強き性質と
兼居申候條約場所柄之義弥御許容不為在候趣ニ被仰入
候得ハ弥戦争ニ及候節ハ京師之皇居ハ南海北海不遠
御場所柄之義ニ付先何國へ御遷座之義可奉言上も難斗
尤様候得ハ差當り　御驚働御迷惑筋ニ被　思召候と

(長谷川氏コウ製)

其邊ニて無餘義御許容被為在候義ニも可有御座と再應
も此段可申上候哉

奥澄云本書ハ前後紛失且甚敷破損アリテ難讀処多
―仍テ其二三を錄スルノミ

自作詩

元旦試筆　鎮軍長吏紀維貞

萬寿無窮弘化春德充四海及君臣　帝孫不改幾
千歳又談三才天地人

同歌

初雁

いやあつ〳〵まだ〳〵夏とは〳〵もおもふ多の初のこゑ秋を知りそめ

(ヒ表紙 カミコウ製)

国立公文書館
National Archives of Japan